

## 新春優品選



木村雨山《友禅赤地吉祥文振袖》  
—「新春優品選」より—

■ 赤門が迎えたお姫様 —溶姫の絵画と婚礼調度—  
【前田育徳会尊經閣文庫分館】

■ 浮世絵にみる『忠臣蔵』【古美術】

■ 優品選Ⅱ【近現代工芸】

■ 現代の書【近現代書】

■ 優品選【近現代絵画・彫刻】

- 1月の企画展示室
- 学芸室の人々
- ミュージアムショップのおすすめ
- 1月の行事予定
- アラカルト ただいま展示中

# 新年のご挨拶

館長 青柳 正規

新年、明けましておめでとうございます。

今年こそは、新型コロナウイルス感染症が発生する以前の状態に戻り、普通の生活をこころおきなく楽しめるようみんなで協力し合っていきましょう。

国連のアントニオ・グテーレス事務総長が「第二次世界大戦以来、最大の試練」と指摘した新型コロナウイルスの蔓延から、私たちは多くのことを学びました。感染症の恐ろしさの一方で適切な防止策を講じさえすれば罹らずにすむということ。しかし、過剰でも過少でもない防止策を見つけるのはなかなかむずかしく、データを集積して分析すること、それにもとづく新たな対策を見つけ実行するがいかに重要なかを学びました。このような経験をアフターコロナの状

況になったら十分に役立てることが大切で、そのような工夫が凝らされた社会こそ本当に「しなやかな強さ(レジリエンス)」を備えることになるのではないのでしょうか。

石川県立美術館は幸いにも「名門美術館」という評価を得ています。長い歴史の中で育まれ、また現在の館員がその名に恥じないよう努力してきた賜物に他なりません。このような評価に相応しい活動をこれからも続けていくとともに、美術や工芸の新しい動きも把握して多くの方々にその素晴らしさや楽しさをお伝えしていきたいと館員一同考えておりますので、本年もぜひ当館に足を運んでいただくことをお願い申し上げます。

## 学芸員の眼

「製作は密室の祈り」とは、三十二歳の村上華岳が残したあまりにも有名な言葉です。画室で製作することは密室での密教の祈りと同じだと言いきり、絵を描くことは宇宙の真諦に達するための修行であるとも述べています。これらの言葉には、数多の菩薩像を描いた華岳の偽らざる思いが凝縮されており、虚心に引かれた迷いのない菩薩像の描線を見るにつけ、この言葉と菩薩像が静かに響き合うかのようです。

線描とわずかな淡彩で描かれた一幅に、画家の生き様を見るような本作は、村上華岳という画家が日本に存在したことに誇りさえ感じさせます。



村上華岳《観世音菩薩》(部分)

# 新春優品選

1月4日(火)～16日(日) 会期中無休

一月四日から二週間足らずの会期ではありますが、第8・9企画展示室にて「新春優品選」を開催します。本展示は古美術、近現代工芸、絵画・彫刻の各分野から、新春に相応しいコレクションを選び、新年に來館されるお客様にハレの当館コレクションを堪能していただくものです。

日本では二千年以上も続く農耕文化も影響し、数え切れないほど多くの年中行事が生まれました。年中行事という言葉自体も千年以上の歴史を持つと言われています。中でも、日本の津々浦々で日を違えず一斉に「おめでとう」と言い合える年中行事がお正月です。これまでも当館では、このめでたき年中行事に合わせたコレクション展示を行ってきましたが、季節感のある展示は正月に限ったことではありません。例えば、藩祖前田利家公の金沢城入城を記念する百万石まつりに合わせて開催する特集「甲冑と陣羽織」も、当館においては年中行事のようなものです。また文化財保護強調週間の十一月にあわせて行う「石川の文化財」や、四季折々の「優品選」など、季節感ある展示が当館の特色と言えるかもしれません。

さて、お正月の晴れがましい雰囲気に合わせて各分野からコレクションを紹介しましょう。まず第8展示室の古美術からは、江戸後期に活躍した加賀藩御用絵師である佐々木泉景筆《松竹梅寿老図》です。狩野派の筆致から生み出される、確かな画格に浸っていただきたい逸品です。

同じく第8展示室から人間国宝木村雨山《友禪赤

地吉祥文振袖》を紹介いたします。赤地に一面吉祥文を埋め尽くした晴れ着です。長寿・子孫繁栄の象徴とされる「不死」の意味もあてる「藤」、豊作と繁栄の象徴「雀」、魔除けの意味を持つ「花菖蒲」など一つ一つの意匠は愛らしく表現されています。

第9展示室は近現代の絵画・彫刻から構成しました。晝間弘の木彫《狸々》を紹介しましょう。ここでの狸々は能の演目から取材したもので、晝間は同じテーマの作品を複数制作しています。本作では酒に酔い、舞い戯れる狸々を、抑えた色調と動きで表現しています。また日本画では、新年の干支である「寅」にちなみ、木島櫻谷の佳作《咆哮》を展示するほか、新年を神仏への祈りから出発する風習に因み、仏画を複数展示します。中でも村上華岳《観世音菩薩》は、当館での初出品になります。

## ◆観覧料

※2階コレクション展と共通でご覧いただけます

- 一般…370円(290円)
- 大学生…290円(230円)
- 高校生以下…無料

※( )内は20名以上の団体料金



晝間弘《狸々》

赤門が迎えたお姫様  
—溶姫の絵画と婚礼調度—

12月9日(木)～1月23日(日)

前号でも少し触れたように、今回の特集展示では、十三代藩主斉泰に嫁いだ溶姫の絵画を初公開します。今号では正月にふさわしいめでたい作品二点を紹介します。

ひとつめは、右幅に松、左幅に梅を描き、それぞれのそばに鶴を描いた《梅松双鶴図》です。松梅も鶴も墨で描かれる中、鶴の頭部のみ朱が差されています。鶴は没骨法を用いることによって、羽の美しさを際立たせ、片足立ちをして休息する鶴と、松の陰から顔を出す鶴の二羽を描きます。松・梅・鶴という吉祥モチーフが、対幅に余白を残しながら巧みに配された作品です。

ふたつめは、中幅に寿老人、右幅に鹿、左幅にこうもりを配した三幅対の《福祿寿図》です。こうもり(蝙蝠)

幅)は「福」、鹿は「祿」、寿老人は「寿」にあたります。大勢描かれた寿老人は、ひとりひとり異なる姿で、囲碁の対局の場面は碁盤の石まで見てとれ、のぞきこむ寿老人たちの表情も豊かです。細部に至るまで丁寧に描く筆致からは、溶姫のまじめであるう人柄がよくうかがえます。右幅の鹿が群れるならかな山と、左幅のこうもりが飛び交う険しい山々は、同じ山でも対照的で、溶姫が広く狩野派の画技を学んだことがうかがえます。

溶姫は、斉泰との婚儀直前に精力的に絵画を制作したとの記録があります。こうした絵画は、父家斉に仕える老中水野忠成や側近たちに下賜されました。婚礼という慶事を前に、絵画の下賜によって徳川に仕える家臣とのつながりを再確認したのでしょう。

## 浮世絵にみる『忠臣蔵』

12月9日(木)～1月23日(日)

第2展示室では、引き続き「浮世絵にみる『忠臣蔵』」を開催します。今号では、展示中の浮世絵から、二点紹介します。

## 《四代目市川団蔵の大星由良助》

赤穂浪士による復讐を題材とした「忠臣蔵物」の舞台は、人々の関心の高さから事件直後から登場しますが、本図は寛政から文化年間初期(一七八九～一八〇八)に京都で上演された歌舞伎を題材とした合羽摺の浮世絵です。「大石内蔵助」では咎められるため、「大星由良助」と脚色されています。京都祇園の茶屋で遊興する由良助のもとに、子・力弥から密書が届きます。行灯の明かりを頼りに、密書を読もうとする由良之助ですが……。

四代目市川団蔵(一七四五～一八〇八)は《忠臣蔵》の登場人物七人を一人で演じる「七役早替り」を行うなど、演出に工夫をこらした人です。

葛飾北斎《仮名手本忠臣蔵初段》  
『仮名手本忠臣蔵』では、事件の発端を『太平記』に求めています。事件そのものを取り上げることは憚られるため、物語の始まりを、誰もが知る『太平記』に仮託したのです。

鎌倉の鶴岡八幡宮に派遣された足利直義を迎えたのは、高師直と桃井若狭助と塩治判官です。討ち死にした新田義貞の兜を奉納したいがどの兜かわからないため、判官の妻・顔世が呼び出されます。顔世が気に入り師直は、若狭助と判官がいけない間に、恋文を渡そうと、しつこく顔世を追い回します。それを止めたのは若狭助でしたが……。

物語の続きは、どうぞ展示室にてお楽しみください。



《四代目市川団蔵の大星由良助》

《景德夫人画梅松双鶴図》

# 現代の書

12月9日(木)~1月23日(日)

毛筆が日常の用から離れ、書の味わい方が「よくわからない」と感じている方もいらつしやるのではないだろうか。現代書の作品分野ごとの特徴や鑑賞のポイントをご紹介します。

長い歴史を持つ「漢字書」は、楷書・隸書・篆書・草書・行書の五体があります。同じ文字であっても、書体により受ける印象が変化するのを比べてみるのも一興です。

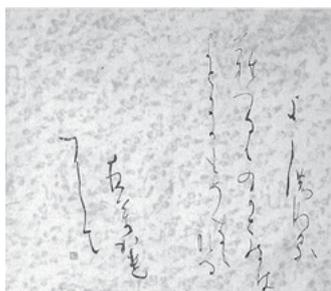
「かな」は日本で誕生し、平安時代に美の頂点を極めました。くずし字や行頭や行末をあえて揃えずに書いたり、時には行を傾けて書く「散らし書き」など独特な表現があり、流麗な曲線と細くしなやかな線の美が共存しています。

篆書を石や金属などの印材に刻する「篆刻」。数七

宙的な美的世界を楽しめます。

一〜三文字程度の漢字により構成される「大字書」あるいは「少字数書」とも呼ばれる作品は、次に紹介する前衛書とともに、戦後に表現様式として確立されました。「大字書」は、漢字が持つ本来の文字の造形性を強調して表現し、薄墨の特性を生かした表現や、構図・構成の工夫で空間の美を生み出しています。前衛書は、文字からスタートしながら、文字の約束事から離れた表現となります。絵画と書の境界線状に位置づけられるように感じるものもあるでしょう。

このように各分野の作品の見方や感じ方を広げながら、書作品を味わってみてください。



日比野五鳳《かも》

# 優品選Ⅱ

12月9日(木)~1月23日(日)

近現代工芸では優品選Ⅱと題し、前回のⅠより2期に渡って優品選をご覧頂いております。

前回のⅠでは、水野博《友禅訪問着「雉にしだ」》を展示しました。Ⅱでは、年間スケジュール表にも作品写真が載っておりますが、《友禅訪問着「創生」》を展示しております。水野は大正七年、現在の富山県砺波市で生まれ、その後金沢に移りました。金沢市立森山町高等小学校卒業後の昭和八年、幼い頃から好きだった絵を生かせるということから、京都の土屋素秋の下で友禅の修業を、同時に金沢出身の日本画家・池田瑞月に日本画を学んでいます。

修業を終え約一年の兵役を経た後に金沢で独立、

木村雨山の指導を受け、日本伝統工芸展等で活躍しました。春夏の草花を主なモチーフとした、鑑賞する側への情感に訴える作品は高く評価されています。

《友禅訪問着「創生」》は、昭和四十八年、第二十回日本伝統工芸展に入選した作品で、晩年水野が最も好きな作品にあげています。

今回優品選Ⅰ・Ⅱでは、Ⅰを鑑賞された方にもⅡで同じ作家の、また違った作品を楽しむことができる展示となっております。新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑みながらの行動の日々ですが、静かに語りかける作品を前に、ゆっくりと作品との対話を楽しんでいただきたいと思います。



水野博《友禅訪問着「創生」》

# 第74回 示現会展巡回金沢展

1月19日(水)～23日(日) 会期中無休

一般社団法人示現会は、本年三月から四月にかけて、東京都港区六本木の国立新美術館にて第七十四回示現会展を開催しました。巡回金沢展では、本部基本作品五十九点(受賞作品を含む)と地元石川県支部作品二十一点、合計八十点を展示いたします。

示現会は堅実中正、清新な具象絵画を目指して、昭和二十二年石川寅二を中心に創立以来、(故)大内田茂士、(故)植原健三の両芸術院会員を輩出しています。

一般社団法人示現会石川支部は、平成二十一年に設立され、多くの方々のご理解と支援のもとに、翌二十二年より巡回金沢展を開催しています。

◇入場料／一般・5000円(10名以上の団体4000円)

65歳以上・4000円、大高生・3000円

※身障者手帳をお持ちの方(付添者含む)、

中学生以下は無料

◇連絡先／一般社団法人示現会石川支部 事務局

南外志雄

電話・090-6810-0436

# 優品選

12月9日(木)～1月23日(日)

日本画は前号に引き続き、没後十年を偲ぶ曲子光男の小特集について紹介します。生涯にわたり風景画を描いた曲子ですが、昭和三十年代の作品は所属する画塾「東丘社」が、日本画壇の前衛画家、堂本印象が率いていたこともあり、その影響が色濃く出ています。やがて昭和後期から晩年にいたるまで、叙情性と写実が見事に融合した風景画へと昇華していく制作の変遷もご覧ください。

油彩分野では、歌声や音楽が聞こえてきそうな作品を展示しております。南政善《アコーディオン》は、椅子に腰かけアコーディオンを弾く男性を描いた、初期の代表作です。制作の参考にしたと考えられる、作者自らポーズをとる写真が残っています。東京美術学校を優秀な成績で卒業したばかりの若き作者は、本作を第二部会展に出品し、特選と朝日文化賞を

受けました。

彫刻分野では、子供・若人をテーマとして展示をしております。展示中の吉田三郎《四高記念碑》は、明治二十二年に金沢で開校した第四高等学校の学生「四高生」をあらわします。三人のうち、中央が袴を着た明治時代、左がバンカラの大正時代、右が詰襟の昭和時代。各時代の装いに個性があります。

草間彌生の特有のモチーフである水玉模様は、幼少から統合失調症で幻覚が原点で、それを描くことは、自らを癒やす行為になるといいます。今回展示の版画作品《街》も、画面いっぱい水玉とそれを囲む線でできた反復や増殖のイメージの作品です。複数制作できる版画での制作は、草間が好んで取り組む表現方法です。

# 学芸室の人々

普及課で、公式ウェブサイトやSNS(ツイッター、フェイスブック)の運営、そしてこの石川県立美術館だよりの編集を担当しています。微力ながら、みなさんの美術館ライフが充実する手助けができればと思いつつ活動しています！

趣味はいろいろありますが、今回は「我が家の収納力アップ」について話してみます。家の任意のデッドスペースに対して、寸法を測り収納グッズをそろえ、軽いDIYもして……という作業が好きです。最近、スノコを組み合わせて洗面台下スペースにピッタリの棚をつくったことに猛烈な達成感を感じました。好きな道具は「つっぱり棒」と「電動ドライバー」です。よろしくお願ひします。

竹内唯(普及課学芸主任)



吉田三郎《四高記念碑》

# ミュージアムショップのおすすめ



左から  
「かお・すがた・ころろ-肖像と近代-」  
「加賀百万石 文武の誉れ-歴史と継承-」  
「うるはしきもの めでたきわざ  
-北陸の芸術院会員・人間国宝-」  
「加賀前田家の名宝 百工比照」  
「壺中日月長 大樋陶治斎のまなざし」

お問い合わせ  
石川県立美術館総務課  
ミュージアムショップ担当  
電話076-231-7580

■通信販売について  
購入希望の図録の名称と、お名前・郵便番号・ご住所・お電話番号を明記の上、代金(価格+送料370円)を現金書留で当館までお送りください。複数冊の場合は、送料が変わる場合がありますので、お手数ですがお問い合わせください。

令和3年度も当館は色々な企画展を開催してきましたが、図録はもう手に入れましたか？ ミュージアムショップでは会期終了後もこれら図録を引き続き販売しているほか、通信販売も承っております。展覧会図録、それは書店に出回らない特殊な本です\*。売り切れると再販はほぼありません。しかし、学芸員たちが一生懸命に文章や解説を書き、資料を掲載、画像の色調整にも気を配るなどして謹製した書籍です。在庫があるうちに、ぜひあなたの本棚にお迎えしていただければと思います！

※最近では書店販売を行う図録も増えてきていますが、やはりそうでないものが大多数です。

## 1月の行事予定

■美術館で書き初め

10時～11時30分

コレクシヨンプレザンタリオン展示室受付付近

\*要コレクシヨンプレザンタリオン観覧料

干支や新春にふさわしい一文字を書いてみませんか。

申込不要で、どなたでもご参加可能です！

所要時間約30分。お気軽にご参加ください。

■寒糊吹き

9時30分～15時30分

文化財保存修復工房前 無料

23日(日)

毎年大寒の時期、文化財修復に使う糊(接着剤)を仕込む作業の様子を、申込不要で自由にご覧いただけます。

■土曜講座

13時30分～15時

美術館講義室 無料

15日(土)

「仏伝図の世界―涅槃図」

学芸員 鈴木彩可

22日(土)

「近代日本の野外彫刻」

学芸主任 竹内唯

※日時や定員等を変更、または中止する場合がございます。最新情報は当館公式ウェブサイトをご確認ください。

### ご参加にあたってのお願い

- ① 来館時にサーマルカメラによる体温チェックを行います。体温が37度5分を超える方の参加は、ご遠慮ください。
- ② マスクの着用、手指消毒の徹底をお願いします。
- ③ 参加時は受付名簿に氏名と連絡先をご記載ください。
- ④ 密集を避けるため、前後両隣の席を空けての着席をお願いいたします。
- ⑤ ホール内では会話を極力ご遠慮ください。

## 《友禅黒地吉祥文振袖》 ゆうぜんくろじきっしょうもんふりそで

丈162cm×裾63.5cm  
昭和22年(1947)

木村雨山 きむら・うざん

明治24(1891)～昭和52(1977)



黒地に松竹梅や雉など、吉祥を表す花鳥を友禅染で描いた振袖です。左肩に紅葉、右肩に雪持ち笹が描かれており、秋から冬へと移り変わる風景が主体となっています。枝ぶりの良い松をほぼ中央に大きく配し、その隙間を縫うように、紅葉や菊、椿、牡丹などの花をのぞかせています。わずかな空間を黒で、ところどころに白で花鳥や雪を染め抜いており、鮮やかな色彩が一層際立っています。

右袖の鷲、右肩の尾長鳥、左袖の鷹、左前身頃の雉がすべて番で描かれています。ことから、うかがい知れますが、本作はいわゆる展覧会出品作でなく婚礼用で、五年をおいてほぼ同じテーマで制作されました。もう一点(※)は赤地に桜

や藤、燕子花などの大ぶりの花が、今を盛りと咲き乱れ、つがいの白鳩、金鶏、雀が飛び交う意匠です。いずれも着用時の見え方を考慮した構成の豪華な振袖で、さぞかし花嫁を美しく彩ったことでしょう。しかしながらこの濃密な構成の晴れ着は、子孫繁栄を寿ぐという人間の理よりもっと根源的な、生きる喜びを歌い上げているかのようです。

作者の木村雨山は、昭和三十年(一九五五)、友禅で最初に重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定された、作家の一人です。染絵の名工であった上村(和田)雲嶂のもとで、友禅の技術を習得するかたわら、日本画家の兄・木村杏園が師事していた、南画家・大西金陽にも学びました。この経験が、既存の友禅と一線を画した、生命力あふれる木村の描写に、大きく影響したと考えられます。

本作は、第5展示室に展示中です。

(※)《友禅赤地吉祥文振袖》  
昭和二十七年(一九五二)  
第8展示室に展示中

## 次回の展覧会

令和4年1月27日(木)  
～2月20日(日)  
会期中無休

	前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室
	前田家の茶道具 と名物裂	金沢ゆかりの 茶道具
第3・4展示室	第5展示室	第6展示室
優品選 【近現代絵画・彫刻】	使う美、飾りの美 ～明治の工芸～ 【近現代工芸】	日本画のてびき ～近代から現代へ～ 【近現代絵画】

## ご利用案内

## コレクション展観覧料

一般 370円(290円)  
大学生 290円(230円)  
高校生以下 無料  
※( )内は団体料金

## 1月の開館時間

午前9:30～午後6:00

## カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00 年中無休

## 1月の休館日は

1日(土・祝)～3日(月)、  
24日(月)～26日(水)

## 「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか?

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、  
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った  
知名度向上県立美術館発行の  
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせは ☎092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F  
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財務確保 検索石川県立美術館だより  
第459号(毎月発行)  
2022年1月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel:076(231)7580  
Fax:076(224)9550  
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>石川県立美術館は電源立地地域対策  
交付金を活用して運営しています。